

第3回モノづくり支援施策のあり方検討部会 会議録

日時：平成26年5月27日（火） 午後6時から午後8時

場所：東大阪市立勤労市民センター 1階中会議室

○中小企業振興会議委員

出席委員：糸野委員、本多委員、森田委員、小杉委員、田中委員、丸谷委員、
阿児委員、西松委員、大本委員、吉田委員

欠席委員：加來委員、高橋委員

○事務局

鶴山モノづくり支援室長、辻井労働雇用政策室長、土山労働雇用政策室次長、
野下モノづくり支援室主査、中川モノづくり支援室主任

開会

- ・新委員（吉田委員）のご紹介
- ・東大阪市立勤労市民センターの概要について説明

1 はじめに

- ・前回の部会で意見があった人材育成等にかかる事業の整理について、事務局より資料2のようなガイドブックを作成すること、中小企業庁が実施している「施策マップ」を活用しインターネットに公開すること、を検討している旨説明。

委員 施策マップについては、市民にどのようにアナウンスしていくのか。

→（事務局）FAXやメールなどあらゆる手段を用いて情報発信していく。

委員 施策マップの稼働時期は。

→（事務局）稼働時期については、まだみえていない。

委員 わかりやすい目次をつくる必要があるではないか。

→（事務局）イメージとしては、資料2のような目次の作成を考えている。

委員 もう少し大きなくくりで分類した方がわかりやすいのではないか。

委員 成功事例の掲載や具体的な対応件数を記載することが必要ではないか。

→（事務局）非常に重要なことだと思うので、ボリュームの注意は必要だが考えていきたい。

委員 ミラサポの利用について、検索条件によって非常にたくさんの施策が表示されるため、そこから自分にあったものを見つけるのが難しい。インターネットだけではなく様々な媒体を使うことが重要ではないか。また、ワンストップで施策案内ができれば良いのではないか。

委員 冊子に盛り込む、盛り込まないかは別だが、施策を検証するために相談件数や利用件数の把握は重要である。

委員 文字ばかり並んでいるよりは、動きのあるビジュアルがあればわかりやすいのでは。

委員 フローチャートのような図表で全体の位置づけを表現するとわかりやすくなると思

うが、何か見やすくする工夫など考えているか。

→（事務局）現段階では、そこまでは考えていない。

委員 見やすくなる工夫を事務局で考えてほしい。

委員 施策の中には、同時に利用できない補助金があるので、同時に使えるのか、使えないのかをはっきりと明示した方が良いのではないか。

委員 C S Wの事例だが、一人の人がいろいろなジャンルの相談について、とりあえず内容を聞いてうまくコーディネートしたり、適切な部署に案内したりしていた。そのようなとりあえず内容を聞くシステムがあれば、もっとよくなるのでは。

委員 総合窓口的なことを行うのは難しいか。

→（事務局）モノづくり相談窓口がそのような役割を行っている。ただし、持っている情報量に限界があるので知り得る範囲内での対応となっている。

2 中小企業支援施策（販路開拓）について

・販路開拓支援施策について、事務局より資料3に沿って説明。

委員 事業調査可能性支援施策について、具体的にどのような施策を考えているのか。

→（事務局）想定しているのは、企業が費用をかけて行うマーケティング調査等への費用面の支援。

委員 アドバイスではなく、費用面の補助か。

→（事務局）企業ごとにマーケットが異なるため、本市で専門家を用意しても限界あると考えている。

委員 マーケティング調査を行うことができない企業は救えないのか。

→（事務局）東大阪商工会議所の売りメッセという施策でモニタリングを行っているので、それを活用するのも1つの方策だと考える。

委員 資料3は、今から新製品をつくりだしていくベンチャー企業向けのフローチャートのように見えるが、東大阪市の企業の多くは、最終製品を持たない下請け、孫請け企業である。大企業と技術力がある市内企業をマッチングする職業安定所のような支援に力を入れるべきではないか。

委員 マーケティング調査に対して補助をする場合は、審査は行うのか。

→（事務局）第3者機関での審査を行う。

委員 技術交流プラザにもっと予算をつけて力を入れるべきではないか。ネットで買い物する際は口コミを参考にしている。技術交流プラザをもっと充実させて、口コミとは少し違うかもしれないが、写真だけではなく各企業のアピールをもっと行うべきだと考える。

委員 現在は、昔ながらの職人氣質の人がホームページも持たず営業もできずに困っているのではないか。そのような方々を技術交流プラザで助けることができないか。例えば、市側から企業を訪ねてヒアリングを行い、情報発信するなど。

また、国内の専門の展示会の出展補助金はないかとの相談がよくある。

委員 国内の展示会の出展補助は可能なのか。

→（事務局）現段階では、国内向け展示会の補助は行っていないが、市内企業へのアンケートでニーズがあれば、予算要求していきたいと考えている。

委員 最終製品を生むという考えで販路開拓を考えるのは難しいのでは。技術をいかに売っていくかということが重要であるが、技術をもっていても表現できない企業がほとんどである。専門家にどのようなアピールが有効か、を相談することに対する支援が必要ではないか。

また、大田区では、大田区の会場で開催される加工技術展に大田区の企業のみで小さなブースを出展しており、大企業が図面をもって見に来ているケースがある。

委員 クリエイションコアでは、同じような展示会はしていないのか。

→（事務局）東大阪市内企業の出展という形では行っていない。

委員 展示会への出展について、まわりの企業でも二の足を踏んでいる企業がたくさんある。東大阪市で小さなブースで同じような業種の企業と一緒に出るのであれば、参加する企業はでてくると思う。

委員 多くの企業は、中間工程の加工技術の表現がわからないため展示会のメリットを考える前にもういい、となっている。展示会のメリットと費用面の補助を市側から伝えることで企業を動かさないとどこも手をあげないのでは。

委員 初回出展料無料なども良いのでは。

委員 確かに何もなしに展示会に出展しよう、とはなかなかならないが、近所の企業が展示会に出展して良かったと聞けば、それならうちも次は出展しようかとなるのでは。

委員 インターネット上の情報発信と展示会の出展はともにやっていくことが重要だと思う。特に、出展しているところに行かずにネット上で閲覧できるというのはとても有効だと考える。

→（事務局）本市の優位性をさらに高めるために、今あるデータベースをボリュームのあるものに再構築していく必要がある。本市の中小企業のポテンシャルである中小零細企業の厚みを技術交流プラザで発信していけるよう環境構築していきたい。アンケート調査の中で市内企業の声をきいていきたい。

委員 マッチングには、うちではこのようなことができますという形と、こういう仕事があります誰かできませんか、という形の2種類がある。こういう仕事があります誰かできませんか、のマッチングもネット上でもっと積極的にできれば良いと思う。

委員 今は、このようなマッチングはできているのか。

→（事務局）技術交流プラザでは、同時に複数社に見積依頼を行うことができる。併せて、モノづくり相談窓口にて適切な事業者とマッチングを行う支援をしている。

委員 展示会に出展する目的として、来場者より展示している同業者との情報交換が有効という企業もある。

委員 本日話に出た展示会に関する事、技術交流プラザに関する事、をアンケートに反映していただきたい。

3 住工共生まちづくり審議会等の進捗状況について

・住工共生まちづくり審議会等の状況について、事務局より資料4、5、6に沿って報告。

委員 資料6の問6にある操業継続の意向について、事業者の規模別でわかるのか
→（事務局）従業員の規模別でだすことができる。なお、このアンケート結果には、新規操業は含まれていない。

委員 詳細な内容は、ホームページを見ればわかるのか。
→（事務局）本市のホームページに掲載する。。

4 その他

・平成26年度の振興会議と検討部会のスケジュールについて、事務局より説明

5 閉会

第4回モノづくり支援施策のあり方検討部会については、6月24日（火）18時よりクリエイションコア東大阪において開催。

=第3回モノづくり支援施策のあり方検討部会 終了=